

～知られざる高井戸の哲人～

え ど て きれい
「江渡狄嶺資料展」が開催中です！

杉並区立郷土博物館分館（天沼 3-23-1）では、大正から昭和にかけて活動した思想家・江渡狄嶺の資料展が開催されています。今回は、狄嶺を一人でも多くの人に知ってもらえるようにと、江渡家で保管されていた自筆の日記や蔵書、著名人との交流を示す手紙や写真など、数多くの貴重な資料を展示しました。資料展は、5月6日まで開催されます。

江渡狄嶺（1880-1944）は、杉並区の知られざる偉人であり、高井戸を拠点として活動した思想家です。狄嶺は、現在の東京大学在学中に思想活動を始め、人間のあるべき姿を追及した結果、「百姓の生活が一番正しいものである」という独自の信念に至りました。

その後 1913 年、東京府豊多摩郡高井戸村字原（現・高井戸東）に、自らの思想を試すため、農場「三蔦苑（さんちょうえん）」を開設。家族や仲間とともに過酷な百姓生活に耐え、64 歳で亡くなるまで、この三蔦苑を拠点に活動を続けました。

また、農業視察や講演をするために、何度も海外へ渡航していた記録もあります。こうして熱心に活動していた狄嶺は、多くの著名人からも慕われていました。その中でも彫刻家で詩人の高村光太郎は、天逝した狄嶺の長男・十蔵を想って御堂を設計するなど、家族ぐるみの交流をしていました。

今回の展示は、狄嶺の孫娘・雪子さんから、杉並区にゆかりの深い数百点に及ぶ資料の寄贈を受けて実現しました。

そうしたものの中には、当時では珍しい海外渡航をしていた狄嶺が、太平洋航路上で記した日記や、家族に旅の様子を伝える手紙、さらには旅先で入手した地図など、身近な「旅」をテーマにした貴重な資料を紹介しています。海外渡航の情景が浮かぶとともに、家族や仲間、多くの著名人から慕われていた狄嶺の魅力が伝わる見応えのある展示となっています。



『江渡狄嶺資料展』高井戸の哲人・江渡狄嶺の渡米から知る大正期の海外渡航

開催日時：平成 30 年 2 月 17 日（土）～5 月 6 日（日） 午前 9 時～午後 5 時

休館日：毎週月曜日・毎月第 3 木曜日（祝日・休日と重なった場合は開館、翌日休館）

開催場所：区立郷土博物館分館（天沼 3 丁目 23 番 1 号）

【報道機関 問い合わせ先】

郷土博物館分館 電話 03-5347-9801